

知っておきたい 「 子どもの特性 」

子どもの交通事故の多くは「飛び出し」によるものです。
子どもの危ない特性を理解して交通安全に努めましょう！



大人と同じようには見えていない

子どもは背が低いため、目線が低く、
見える範囲も大人の約6割です。

そのため、高い位置にある信号や左右
から近づく車が見えていないことがあります。

	大人	6歳児
上下の視野	約120度	約70度
左右の視野	約150度	約90度



夢中になると周りが見えなくなる



遊びやおしゃべりに夢中になり近づく車に気が付かない、ボールを追いかけて道路に飛び出すなど、ひとつのことについ夢中になると周りが見えなくなります。

気分によって行動が変わる



嬉しいときや悲しいときなど、そのことで頭がいっぱいになるため、行動が衝動的になります。

【 駐車場での注意 】

① 必ず手をつないで歩きましょう

子どもは背が低いため、車の死角に入りやすく、運転手から見落とされる危険性があります。



② 子どもを先に降ろさないようにしましょう



駐車場内の子どものひとり歩きは危険です。
車に乗る時は子どもを先に乗せ、降りる時は大人が先に降りて、子どもを降ろすようにしましょう。

交通安全は「家庭から」

お子さんの性格や成長の度合いに合わせて、飛び出しの危険や交通ルールについて繰り返し教えましょう。

また、止まる場所や安全確認の仕方など、実際に自宅付近を歩きながら具体的に教えましょう。

